

榎木

創刊号

平成22年10月1日発行
青壮年部・女性部・広報部
題字：大内翠峯

を一つの機縁として、檀信徒の皆様が気軽に立ち寄って頂き、人生の喜びや悲しみ、

「あいさつ」

清浄山禪興寺住職 梅澤徹玄



この度、当山花園会青壮年部・女性部を本年七月七日、約百五十名の会員をえて、無事発足できました事に、心より感謝申し上げます。思い起こせば昨年十月の晋山式は、各地区から選抜された実行委員会の絶大なるご協力いただきました。改めて檀信徒が結集した力の大きさに深く感銘を受けるとともに、檀信徒が日ごろ寺に集う菩提寺の必要を痛感いたしました。花園会青壮年部・女性部の設立

苦しみを共に分かち合える場として、お寺が少しでも皆様のお役にたてればと願ひ、その第一歩を歩み始めたところでございます。

人生には家族や親しい方々との別れをはじめ、さまざまな困難や試練、悩み、苦しみがどうしても避けられません。けれど、お釈迦様は、人はだれしも必ずこうした試練を乗り越えられる、すばらしい力（「仏性」）をこの身に頂いて生まれて来ている、とおっしゃいます。

亡くなった方々の菩提を弔うことの大切さはもちろんです。しかし、やはり仏教の教えが遥かインドの地から二千五百年の時を経て、日本へ受け継がれてきたのは、生きる私たち人生の道しるべとなつてこそと思います。

今後青壮年部・女性部、檀信徒が仏教を学び、助け合い、高め合

う場として、発展してゆくことを心より祈念して、御挨拶とさせていただきます。

合掌

部会結成誕生を祝して。

禪興寺総代長 伊藤彌夫



認識をいたしております。部会結成に協力くださいました総代各位ならびに関係者の方々に感謝と敬意を表します。

部会活動は歩みを始めっております。地域社会からの存在価値の評価をいただくのは未だ先のことと存じますが、若い世代の部員皆様ご自身が研鑽と諸行事に参加しながらお寺様を盛り上げ感心度を深め、佛法と先祖様よりの御加護をいただき活動を続けるその歩みを見守りたいと存じます。

また部員一人一人が生きかたで人生に迷ったとき、つらいとき、かなしいときどんなときもお寺があり部会という拠所がある、そんな雰囲気のある部会に成長してもらいたい。そのことに総代会もお手伝いをしてゆきたいと考えております。

総代会と部会が車の両輪の如く固い絆で結ばれ、山門の繁栄と檀信徒の更なる融和を深めて、仏法のおかげさまに生きる心を大切にしながら日々を送りましょう。

小生が総代就任以来の目標でありました部会が結成されましたことと檀信徒の皆様と共に御同慶にたえませぬ。本年一月総代会に提案し、集落のアンケート調査実施。設立準備委員会の立上げ、七月七日入会者百四十七名の参加により青壮年部・女性部が結成されました。

晋山式が禪興寺と檀信徒の第一の夜明けの時とするならば、部会結成は第二の新しい夜明けの時と

青壮年・女性部

発足にあたって

会長 石垣 英孝



昨年の晋山式以来、青壮年部・女性部を作る話が次第に高まり、二回の準備会の後、七月七日設立総会が開かれました。浅井功さんの議長にてスムーズに進められたが、会員から出された質問・要望は各部のあり方と運営について多かった。その事を受け、第一回役員会では、広報部以外は部長・副部长を中心に進められる事となった。総会員百四十七名、役員二十三名、事務局六名、そして顧問には、総代長の伊藤彌夫さんと住職をお願いする。他に部落毎に班長（連絡責任者）を一〜二名。

いよいよスタートである。



本堂に幕が張られ 準備万端

最初の事業は、孟蘭盆施餓鬼会。前日（八月十一日）朝五時三十分よりお寺周辺の草取り清掃（二十名参加してくれました）午前は本堂他清掃、午後は会場設営、飾りつけ、諸準備、そして当日。今日も暑い。朝からお客さまを迎える準備と弁当作り、一部は金取南の女性部に作ってもらってはいるが精進料理を中心に、弁当百個である。中身は既に決まっているが、時間の制限もあり、さぞ忙しかったことと思う。副会長、若生正義さんの司会のもと施餓鬼も会順調に進み昼食時間。暑い中で大変であったが皆にお

いしいと喜ばれたことで大満足である。

今後は、十月二十三日の大般若祈禱への協力や坐禅体験・女性部活動・広報発行等である。会員多くの皆さんの協力をいただき初年度としては上出来で過ごしたいものである。

初心の目的を忘れることなく、本会が仏心の普及と会員の意識向上、地域の発展に貢献できれば光栄である。

いつでも新会員大歓迎です。

結びに、檀信徒皆様の益々の御繁栄を御祈念申し上げ、私の発足にあたっての御挨拶とさせていただきます。



前日早朝の草取り

副会長 平 愛子

清浄山禪興寺花園会 青壮年部・女性部設立後、施餓鬼会新亡供養が八月十二日菩提寺禪興寺本堂で執り行われました。地区外地域内の参列者による般若心経 代表焼香 当山住職より御法話を頂き、部員が持ち寄った地域の野菜等を使用し、女性部員手作りの供養の弁当を全員本堂でいただきました。猛暑の中で厳肅な一日を過ごすことが出来ました。各部会毎による詳細な打ち合わせにより無事、終えることが出来ました。

ありがとうございます。

これからも部員皆様のご協力、よろしくお願い致します。



公民館で精進料理に大奮闘

施餓鬼会・新亡供養

八月十二日に開催されました。

せがきえ 施餓鬼会とは・・・

盂蘭盆施餓鬼会、の略。盂蘭盆はお盆の語源で、インドの言葉で「ウンバーナ」と言い「倒懸（逆さ吊りの苦しみ）」を意味します。

お釈迦様の十大弟子の目連尊者が、亡き母上が六道世界の一つ「餓鬼道」に墮ちて、飢えと喉の渇きに苦しんでいるのを救う為、お釈迦様のご指示により、七月十五日に合わせて行った、萬霊供養の儀式です。

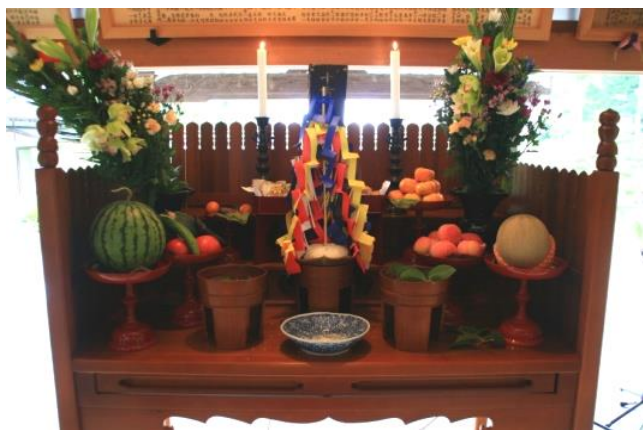
これにより過去七代の父母に遡り、御先祖様が死後の世界で、飢えと渇きから救われるという功德がもたらされます。



住職を先頭にお経を唱えながら本堂を廻ります。



和尚さん大集合 いよいよ儀式始まります。



施餓鬼会のお供え物です。



みんなで般若心経をあげています。



手を合わせ先祖の霊を弔います。



壁には仏さまの名前を記した幡がいっぱい

女性部 部長 浅井房枝

花園会青壮年部・女性部設立総会後、二回の役員会、打ち合わせ会等を経て、初めての事業の盂蘭盆施餓鬼会（含む新亡供養）が八月十二日に行われました。女性部は前日の本堂の清掃、湯茶接待・出齋準備・供養膳用の買い物、お煮付けの仕込み、当日は午前八時より麓下公民館において十三名のご協力により供養膳作り、午後片付けを行いました。暑い中なので、食中毒にならないよう細心の注意を払い、地元のお米や野菜を使ったお精進料理を考え、手早く見栄え良くそしておいしくと、皆さんのアイディアや意見を出し合い、又教えていただきながら取り組みました。

お陰様で予定時間内に百名分のお膳を準備することが出来ました。初めての体験なので戸惑うことも多々ありましたが、皆様に支えていただき大きな行事を終えることが出来ました。

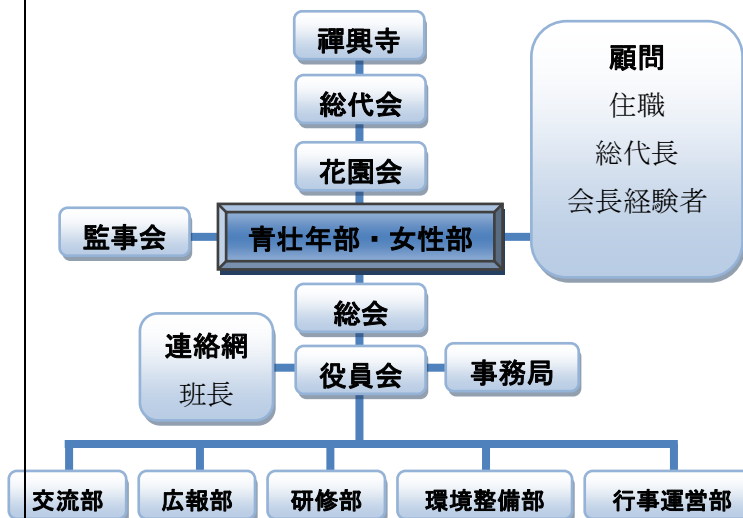
女性の方々にはお盆前の、ご多忙のところ都合をつけてご出席、ご協



女性部による精進料理
おいしく頂きました。

力を頂きましてありがとうございます。感謝とお礼を申し上げます。

青壮年部・女性部組織図



青壮年部・女性部 役員名簿

会長	石垣英孝
副会長	若生正義 平 愛子
幹事	今野静雄 小川弘吉 大崎 清 早坂孝子
監事	早坂妙子 浅野澄江 高橋一悦 堀籠孝治
女性部	部長 浅井房枝 副部长 鶉橋良子
行事運営部	部長 佐々木久夫 副部长 浅井 功
環境整備部	部長 鶉橋庸雄 副部长 若生誠治
研修部	部長 大内静雄 副部长 堀籠健人
広報部	部長 鶉橋初雄 副部长 佐藤 彰
交流部	部長 高橋 淳 副部长 渡辺正男
事務局	局长 早坂 宏 次長 浅井 茂 庶務 吉川絹江 会 計 堀籠洋子 総 務 浅井和茂 堀籠 功

これからの行事

◎ 十月二十三日「大法要」
開山大領和尚の木像修復披露
大般若祈禱 戦死病没者英霊
追善供養の一大行事が開催されます。ご参加・ご協力をお願いいたします。

編集後記

榎の木「榎」の字には、両方へ開く箱という意味があります。禪興寺本堂の裏に三百五十年以上大地に根ざし育成してきた大樹。禪興寺の門を開いていただき檀信徒、青壮年部・女性部の方々が、気軽に訪問し禅の心、教えを学び、親睦を図り榎の木のごとく成長、発展することを願って命名致しました。



広報部員
部長 鶉橋初雄
副部长 佐藤 彰
小川弘吉 高橋一悦
浅井明美 浅野澄江
相澤敏晴

仏事の際は、輪袈裟と数珠を身に着けましょう。